子育て情報（園長先生の子育てひろば）

令和２年度　１２月
椙山女学園大学附属幼稚園

子どもたちの音楽会

園長　山中　文

「えんちょうせんせい、おんがくかいにきてください」

年少さんが何人も職員室に来て誘ってくれ、囲まれるようにして年少さんの共有廊下に行きました。

到着するとすぐに６，７人が手作りのマラカスを持って一列にスタンバイ。「ジングルベル」の曲が流れると、音楽隊は一斉にリズムをたたきます。たったそれだけなのに、楽しそうなこと！そのうち、マラカスをやめて、広告を丸めて作った剣２本を十字にし、１本はバイオリンに見立て、もう１本は弓にして弾きはじめる子どもが出てきました。音は鳴りませんが、ポーズは立派なバイオリニストです。

と、そこでなんと、音楽隊と観客の間に通行人が。本人は何気なく通ったようです。が、見ていた先生たちは止めません。それどころか「お、通行人が通ったぞ。どうしたどうした？」とはやしたり、「サンタかなあ？」とつぶやいたり。音楽隊も動じることなく、演奏（？）を続けます。すると、先ほどの通行人が、今度はサンタらしく、荷物を背負ったようにして通ります。

そうこうしているうちに、今度はおもちゃのお椀を両手に持った子どもが飛び入り出演して、打ち始めます・・・

まるでドラマを見ているような「おんがくかい」でした。「楽器を叩かされる」のではなくて自ら打って、みんなで音楽的時間を共有している― 年少さんがそういう姿を見せるようになったということだけでも楽しいことです。その上に、子どもたちが、新たに自分なりの表現をつくったり、合わせてきたり、その前を通るだけなのに参加することになったり、というのはなんと面白いことではありませんか。

もうひとつ、おっと思ったのは、教師のことばでした。自由遊び中の音楽隊ごっこだったということもありますが、先生たちは誰も通行人を止めませんでした。「サンタかなあ？」とつぶやいたことで、その子どもは、「邪魔をする困った子」ではなく、「ドラマ出演者」になったのでした。

表現しようとするきっかけも、表現したくなくなるきっかけも、また、表現が型通りになってしまうきっかけも、時々大人がつくってしまいます。「ああ、おもしろいことをやってる」と思えるような子どもたちの姿を見た時、そこにいる大人の目線やことばかけを探していくと、またまた面白くなるかもしれませんよ。